



# 男声合唱団 昂ニュース

No.798  
2023.8.18

発行：男声合唱団 昂  
レッスン会場：  
大阪市中央区谷町7丁目1-39  
谷町第2ビル308号 ねむかホール  
連絡先：090-6058-5652(立川)

## 昂第23回総会を開催

7月17日(祝)～  
18日(火)

長居  
ユースホテル



7月17日(月・祝)～18日(火)、長居ユースホテルで、昂第23回総会が開かれました。

新型コロナの影響で、合宿形式で開いたのは2019年以來ですが、1日目が総会と夜の交流会、2日目が14回コンサートに向けた話し合い、パートレッスン、全体レッスンと盛りだくさんな内容となりました。

総会参加者は、合計21名(内委任状1名)+特別参加(日曜団員)1名。

総会は、議長を大島さん、書記を吉岡さんに選んで始まりました。

千秋団長の開会あいさつ、立川事務局長からこの1年の振り返りと今後1年の活動方針提案、各部からの報告の後、約30分間の討議、休憩をはさんで財政部からの報告・提案と討議を経て団費値上げの採決を行い、賛成多数で承認。次期役員提案の後、その他の採決を行い、賛成多数で承認され総会を終えました。

団費を値上げせざるを得ない赤字財政の問題、今後どういう方向で赤字を解消していくのか、声楽教室の負担金問題などで活発な討論がありました。

(討議での主な発言は2面に掲載)

### 8月～9月の活動予定(会議を除く)

- 8/18(金) 18:00 定例レッスン
- 8/20(日) 14:00 地底のうた練習④、定例レッスン
- 8/22(火) 14:00 定例レッスン(追加分)
- 8/25(金)～27(日) 日本のうたごえ祭典in北海道
- 9/1(金) 13:30 声楽中村教室  
" 18:00 定例レッスン
- 9/3(日) 14:00 昂 友の会定例練習会
- 9/5(火) 15:00 T1.2パートレッスン
- 9/12(火) 13:30 声楽千秋教室 I  
" 18:00 Br. Bsパートレッスン
- 9/15(金) 18:00 定例レッスン
- 9/17(日) 14:00 地底のうた練習⑤、定例レッスン
- 9/21(木) 17:00 声楽千秋教室 II
- 9/26(火) 14:00 定例レッスン(追加分)
- 9/29(金) 18:00 定例レッスン(復活分)

### 日曜団員の位置づけについて

昨年度総会の懸案事項だった、日曜団員の位置づけについては、日曜日のレッスンに出ることを中心にしたゆるやかな団員とします。その後、昂の活動を知ってもらって団員になってもらいたいと考えています。

元々団員で、日曜日しか参加できない人を日曜団員としていましたが、改めて、日曜に参加する「団員」として位置付けて、団費については会則第8条の個人的理由がある場合を適用して考慮することにします。

※日曜団員の区分・位置づけが、明確になっていないところや、会則上の規定が必要という意見もあり、運営委員会で文章上で明らかにしていきたいと思います。

### 会則改正(団費の値上げ)

○第8条 「通常団費 4000円/月」に変更  
団財政赤字補填のため1000円アップ。

ただし、10月までは特別運営費徴収があるため、11月から徴収変更。

### 新役員体制について

○昨年からの変更点

T2パートリーダー 大島成美→伊藤 知  
Brパートリーダー 奥村克美→大島成美

## 7/17総会での主な発言

### 友の会について

○友の会は、推進委員の人がめっちゃ頑張って、家族や知り合いを誘って発足した。団員全体で考えたら対象者はもっと多い。みんなが声をかけて来てもらったらもっと増える。

○全体の雰囲気は、「来て楽しい」と言ってもらっているし、一回も休まずに来てくれる人もいる。団員みんなが気にとめてもらって誘ってほしい。ぜひ一回来て雰囲気を覚えてほしい。

○友の会としてコンサートの舞台に立っても、人数が少ないと「こんなに少ないのなら行く気にならん」となる。にぎやかに10人以上にしたい。活動は軌道に乗ってきてすばらしい取り組みになっていると思うが、推進委員の負担が重い。推進委員会と友の会の担当は別にして、1年交代にするなど検討してほしい。

### 財政について

○なぜ、次期予算案では赤字額が60万円に増えているのか。

○去年繰越金が20万円あったものが、赤字決算で次期予算への繰越金が-20万円になっているので、大きくなった。純粋な赤字額は、今年度も来年度も約40万円。

○声楽教室だけでなく、他のものも洗い直しをしないと赤字をなくせない。他の合唱団の状況を調べたらいいのではないか。

○他の合唱団との比較ではなく、昴が自主的に決めればよいこと。

○これまでもコンサートの収入がなければ赤字体質だったのではないか。それも含めて総合的に考えていく。

○これまでは、みんなからの寄付とコンサートの収入で赤字を埋めてきたが、こういうのを当てにするのではなく赤字を出さない方向を検討しなければいけない。

○昴は昔からコンサートの収益を運営資金にしてきた。コロナでコンサートができなくて苦しくなってきた。また、団員数の減少、チケットの販売力の低下でコンサートでの収益を期待するのは難しくなっている。消極的な考え方だが、昔の人はお金を残すには儲けることより使わないことを考えた。

○コンサートで収益を上げるという考えは改めるべき。10年前と水準が変わっている。根本的に検討しなおすべきだ。

### 声楽教室について

○声楽教室の予算案では、支出に対して53%の収入しかない。倍にすれば、トントンになるが、赤字額全体ではない。

○声楽教室1000円が安いと言われているが、団内で決めればいいことで、倍にすると受講している人にも影響が大きいので、せめて1500円にできればと思う。

○昴の声楽教室は約30分だから、あまり高くすると意欲を削ぐことになる。実費で運営するという方向で運営委員会で決めたい。

○声楽教室については上げるという方向だけ確認して、運営委員会で決めたい。

↑2寺脇さんとBr吉川さんから「最上川舟唄」の資料が届きました。長いので一部抜粋して紹介します。

### 「最上川舟歌」について

昭和11年(1936年)、NHK仙台放送局が「最上川を下る」という番組を作るにあたって、渡辺に舟唄の紹介を依頼。依頼を受けた渡辺は後藤と共に最上川の船頭らに聞き取りを行ったが、当時「最上川独自の舟唄」と呼べるものは存在しておらず、新潟や松前を原点とする酒田追分や松前くずし(新内くずし)、難所越えの時の「掛け声」程度しか見つからなかったため、これらを元として新たに曲を作った。これが現在の「最上川舟唄」である。

(山形県西村山郡大江町左沢(あてらざわ)在住の渡辺国俊が作詞し、後藤岩太郎が編曲。)

「酒田さ行くさげ 達者(まめ)でろちゃ」から始まる本唄の部分は、『酒田追分』(さかたおいわけ)や『松前くずし(新内くずし)』などが転用されているという。

古い舟唄や民謡の一部を原曲としているようだが、実際には伝統的な民謡ではなく、『ちゃつきり節』のような新民謡(創作民謡)の一つと言える。

#### 歌詞の意味(大意)

『最上川舟唄』の歌詞は、仕事で酒田まで舟を漕ぐ最上川の船頭が、残していく女性に対して想いを歌う内容となっている。時系列にはなっていない。

夫婦なのか恋人なのか、具体的な関係性については明らかではない。恋人関係としても、もしくは結婚したばかりの新婚夫婦としても、様々に解釈できそうだ。

『最上川舟唄』の掛け声「ヨーイサノマガショー エンヤコラマカセー」の部分は、ロシア民謡『ヴォルガの舟歌』から大きな影響を受けていることが分かる。

さらに、歌詞についても大部分が新たに作詞されたか、既存の民謡から引用されたものであることが推測される。

実際、北海道民謡『江差追分(えさしおいわけ)』では『最上川舟唄』と同じ歌詞が一部使われており、『最上川舟唄』の作詞にあたって何らかの参考にされた可能性が考えられる。

股大根(まっかん大根/まっか大根/まっかんだいご)は、二股や三股に分かれた大根のこと  
山形県庄内地方では、12月9日に行われる伝統行事「大黒様のお歳夜(おとしや)」において、股大根を大黒様にお供えする風習がある。

清水脩の「最上川舟唄(男声合唱・混声合唱)」は編曲というより完成度の高い合唱作品として、国内はもとより、来日する海外の合唱団にも日本を代表する民謡レパートリーとして演奏されている。

We bサイト(You Tube)で、「最上川舟歌合唱ユーチューブの動画」でいろんな団体の合唱が楽しめます。

【出典】ウェブサイトの下記資料より引用

世界の民謡・童謡1998-2023

フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』